

神社名：七所神社      ななしょじんじゃ

住 所：北区西ヶ原2-11-1

調査月日：2020年2月1日

調査参加者：栗田、神川、河辺、有田、木村、梅田、宮崎、小幡、浅見、竹内、小林、木村（怜）  
定本

写 真：



由来など： この神社の祭神は伊邪那岐命、伊邪那美命、天児屋根命、伊斯許理度売命、市寸島比売命、品陀別命（応神天皇）、帝中日子命（仲哀天皇）で、由来については寛政5年（1793）火災により社殿古記録等一切が焼失したためよくわかっていない。「新編武蔵風土記稿」には「村ノ鎮守トス」と記され、古くは別当寺であった無量寺

の境内にあり、寛政 6 年再建後もそこに祀られてた。「江戸名所図会」にも、無量寺の裏の高台に描かれている。明治初年神仏分離の際、神明宮社地（現在の地）に移され（明治 3 年）、西ヶ原の総鎮守として奉祀されるに至ったものである。

末社には神明宮、稲荷神社、熊野神社、菅原神社、三峯神社がある。神明宮は天照大神を祭神としており、もともこの地にあった神社だが、七社神社移転により末社となったものである。現在、切株が残っている杉の古木はその神木である。

また、旧社務所は村の青年会の発起で渋沢栄一、古河市兵衛を筆頭とする諸氏の寄附により大正 9 年建てられたもので、公会堂を兼ねたものであった。

なお、この境内から隣地にかけての一部は七社神社裏貝塚として知られた遺跡で、縄文式土器、弥生式土器、土師器などが発見されている。

（七社神社境内掲示より）

祭神など：伊邪那岐命、伊邪那美命、天児屋根命、伊斯許理度売命、市寸島比売命、品陀別命（応神天皇）、帝中日子命（仲哀天皇）

空間位置・面積等・植生など：平塚神社と同じ台地際であり、かつての入り江上の台地だったと考えられる。遺跡の存在はそれをものがたり、縄文などの遺跡の存在は聖地だったと思われ興味深い。神明宮の神木スギの痕跡はそれを意味しているようだ。

今の神木は拝殿向かって左の大イチョウだ。境内は大径木のスダジイ、ケヤキなどが多い。また、桜の種類も数多植栽されているし、その他、グッケイジュやハマヒサカキ、センダンなども生育している。

地図上の位置：





平面図：

# 七所神社

2020/02/13

